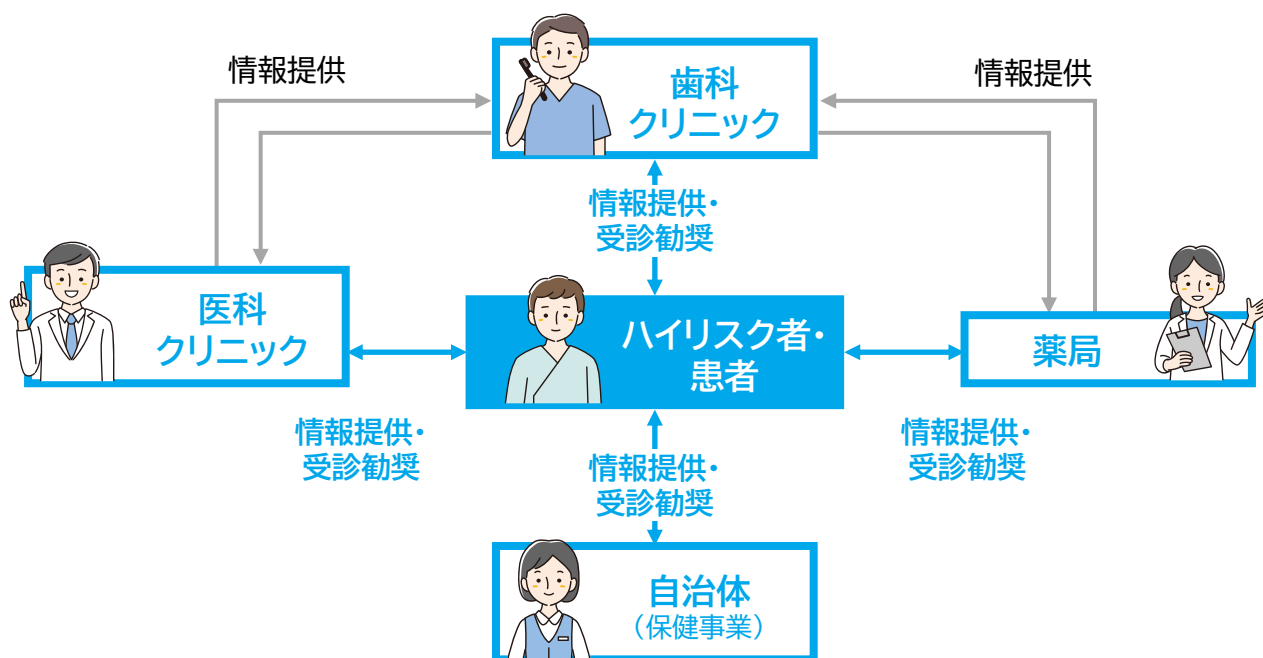


医歯薬連携のための クイックマニュアル



医歯薬連携により糖尿病・歯周病の重症化を予防

歯周病または糖尿病リスクが高いと判断された患者様に対して、医歯薬・自治体が連携してアプローチすることで早期かつ多面的な介入ができるほか、地域で見守られているという安心感や信頼感を患者様に与えることができます。



医歯薬連携プログラムにおける医師・看護師の役割

- 医科クリニックでは、糖尿病の治療で医科クリニックに通院されている患者様に対して、歯周病リスクのチェックリストを渡し、リスクが高い方にはリーフレットによる情報提供と、必要に応じて歯科への受診勧奨を行います。
- 医師は、糖尿病の患者様の全身状態を確認できるため、歯周病リスクの高い方に対して効果的に歯科の受診勧奨ができると考えられます。
- 医科クリニックが参加することで、患者様の全身状態を踏まえて歯科との連携を進めることができます。

STEP
1

プログラム対象者の抽出

40～74歳、糖尿病の治療が目的で受診した方を対象者として抽出



チェックポイント

年齢が上がるほど歯周病のある人の割合は増加します。40代でも2人に1人が歯周病となっています。

該当
しない

通常の診療を実施

STEP
2

歯周病リスク者の抽出

チェックリストに1つでも該当した人を歯周病リスクがある患者として抽出



チェックポイント

喫煙は歯周病のリスクを高めるといわれています。
歯周病のメンテナンスには、3か月に一回程度の歯科受診が推奨されています。

該当
しない

通常の診療を実施

歯周病に関するチェックリスト 医科

本チェックリストは「40歳以上75歳未満の方」かつ「糖尿病の診断をされている方」全員にお配りしています。以下の説明をご覧ください。①②の質問にお答えいただき、診療の際に医師にご提示ください。

《歯周病と糖尿病の関係》

歯周病は糖尿病の合併症の1つであり、また、糖尿病は歯周病の2大危険因子の1つであることが知られています。両者は密接に関連しており、歯周病をコントロールすることで、糖尿病のコントロール状態が改善する可能性が示唆されています。

◆お名前 _____

◆ご質問

① 現在、タバコを吸っていますか。
はい ・ いいえ _____

② 歯科クリニックに定期的に（3か月に1回程度）受診していますか。
いいえ ・ はい _____

本チェックリストは愛知県の「令和4年度歯周病診療による糖尿病重症化予防モデル事業」の一環で作成したものです。

チェックポイント

その他、歯ぎしり、歯並び・噛み合わせの悪さ、口呼吸、ストレスなども歯周病のリスク因子として知られています。

STEP
3

情報提供

歯周病リスクがある患者には、
リーフレットを用いた情報提供を実施



チェックポイント

糖尿病と歯周病の関係
の説明や、歯周病リスク
チェックの活用を推奨く
ださい。

ご存知ですか？

糖尿病と歯周病との関係

- 歯周病は糖尿病の慢性合併症のひとつです。
- 歯周病の治療を行うと血糖コントロールが改善し、糖尿病重症化の予防に繋がる可能性があります。
- 糖尿病の治療をされている方は、ぜひ一度かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師にご相談ください！

公益社団法人
愛知県医師会一般社団法人
愛知県歯科医師会一般社団法人
愛知県薬剤師会STEP
4

歯科への受診勧奨

医師による診察の結果、必要な患者には
歯科クリニックへの受診勧奨を実施

実施の結果の記録、再度来院した患者の
受診状況の確認



チェックポイント

受診勧奨には、診療情報
提供書や、糖尿病連携手
帳等をご活用ください。

様式1(歯科→内科)

診療情報提供書

令和 年 月 日

診療科目・診療科

(診療情報提供書を送付する医療機関の名称)

〒 番 町 丁目

TEL

FAX

TEL

FAX

TEL

FAX

TEL

FAX

TEL

FAX

TEL

FAX

TEL

FAX

TEL

FAX

TEL

FAX

TEL

FAX

TEL

FAX

TEL

FAX

TEL

FAX

TEL

FAX

TEL

FAX

TEL

FAX

TEL

FAX

TEL

FAX

TEL

FAX

TEL

FAX

TEL

FAX

※2024.12 愛知県における愛知県医師会へスポンサー提供事業「糖尿病連携による糖尿病重症化予防事業」作成様式

(公) 愛知県医師会、(一社) 愛知県歯科医師会、(一社) 愛知県薬剤師会 共同

医歯薬連携プログラムの効果

令和3年度事業では、**6地域95の医療機関**がプログラムに参加しました。2.5か月間の試行期間中、**約7,500名のプログラム対象**のうち、**約6,200名にリーフレット**による情報提供を行い、また**約2,000名に受診勧奨**を実施しました。

参加医療機関へのアンケートの結果

患者の糖尿病と歯周病の関係性について理解の促進につながっただけでなく、参加機関が医歯薬連携の重要性を再確認する機会となった

今後も医歯薬連携を進めていくべきである（回答した医療機関の9割以上）



歯周病治療の効果

歯周病による炎症部分の広がり(面積)は、すべての歯の総和にすると約72cm²となり、これは手のひらとほぼ同サイズになります。

糖尿病と歯周病のある患者に歯周病治療を実施すると、PISA(歯周病ポケット炎症面積)に加え、HbA1cの数値が低下するといった効果があらわれます。

糖尿病＋歯周炎のある患者（40代）の歯周病治療例



歯周病治療前
歯科初診時

歯周ポケット平均	4.9 mm (炎症 ++)
PISA (歯周ポケット炎症面積)	2291 mm ²
HbA1c	7.9 %
内服薬	ビオグリタゾン (インスリン抵抗性改善薬) トラゼンタ (DPP-4阻害薬) セイブル (αグリコシターゼ阻害薬) アムロジピン (Ca拮抗薬) など



歯周病治療後
メインテナンス時

歯周ポケット平均	2.5 mm (炎症 →)
PISA (歯周ポケット炎症面積)	91 mm ²
HbA1c	6.9 % (1.0 % ↓)
内服薬	トラゼンタ (DPP-4阻害薬) ボグリボース (αグリコシターゼ阻害薬) ミチグリニド (速効型インスリン分泌促進薬) アムロジピン (Ca拮抗薬) など

(愛知学院大学歯学部 菊池 毅 准教授 より提供)

リーフレットより一部抜粋

医歯薬連携プログラムの取り組み事例

山本医院（愛知県豊橋市）



院長
山本 和彦 先生

本プログラム実施の際の工夫点

分かりやすいリーフレットなどで視覚に訴えることが効果的だと思います。また、患者さんは結構院内掲示を見ているので、ポスターを掲示しておくのは啓発として有効だと思います。

患者さんに診察室で説明してもすぐ忘れてしまうので、調剤薬局でも再度話してもらうことは大事だと思います。

本プログラムの感想

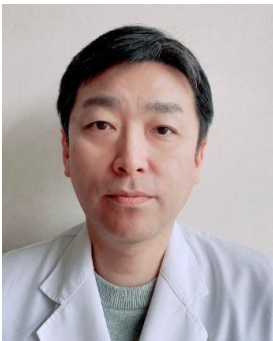
患者さんを介した三師会の連携は初めてでしたが、本事業を通し、歯科との連携の必要性をさらに感じました。

また、本事業実施後、歯科から抜歯等についての問い合わせが多くなったと感じています。

今後に向けて

医科に通院している患者の多くは歯科の定期健診を受けているため、医科に通院していない患者の掘り起こしが重要です。例えば、自治体の特定健診と連携し、健診時にリーフレットを渡すなどの工夫が考えられます。

岡田整形外科内科（愛知県名古屋市）



院長
西井 裕和 先生

本プログラム実施の際の工夫点

患者様には、なぜ歯科に受診する必要があるのかをしっかりと説明することが大切だと思います。そのために、リーフレットがとても役に立ちました。リーフレットに歯周病の写真が使われており、これを使うことで文字だけよりもわかりやすく、インパクトがあり、歯科に行く動機づけにつながりました。

本プログラムの感想

以前から眼科との連携はありましたが、歯科との連携はありませんでした。しかし、このプログラムに参加させていただいたことで、歯科との連携も増え、1年半たった今でも続いています。また歯科で歯周病の治療をされている患者様を内科に御紹介していただくケースも増えました。

診療情報提供書も、チェック形式のものを用意していただいたので、歯科への紹介がしやすくなりました。

今後に向けて

医歯薬連携プログラムを広げていくには、医師、歯科医師、薬剤師がこのプログラムがあることを知ること、つまり認知度を上げることが重要だと考えます。地域で草の根的にコツコツと認知度を上げていくのが近道だと思います。

また、プログラムに参加している歯科医院の情報を地図上で一覧で分かるようにしてあると、連携しやすくなるのかなと感じました。診療情報提供書は連携のきっかけであり、その後のやりとりには糖尿病連携手帳などを活用できると、紹介状作成の負担が減って良いと考えます。

医歯薬連携プログラムとは

歯周病と糖尿病の両者が密接に関連しており、歯周病をコントロールすることで、糖尿病のコントロール状態が改善する可能性が示唆されていることから、医歯薬が連携し、糖尿病患者の歯周病リスクを低減することは、糖尿病重症化予防の観点から重要です。

愛知県では、国保ヘルスアップ支援事業の一環として、愛知県医師会、愛知県歯科医師会、愛知県薬剤師会にご協力いただき、国保加入者を対象とした医歯薬連携による糖尿病重症化予防のためのプログラムを開発しました。

地域のかかりつけ医・歯科医・薬剤師、さらには自治体が連携することで、リスクがある患者様に対する早期発見・早期介入につなげることができます。

本事業の詳細、リーフレット、参加医療機関はこちら

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kokuho/ishiyaku8.html>



ご存知ですか？
糖尿病と歯周病との関係

- 歯周病は糖尿病の慢性合併症のひとつです。
- 歯周病の治療を行うと血糖コントロールが改善し、糖尿病重症化の予防に繋がる可能性があります。

糖尿病・歯周病の治療

歯周病の心配がある人は、かかりつけ医やかかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師に相談しましょう。また、自治体の健診も受診しましょう。糖尿病は、医師、歯科医師、薬剤師が連携して治療に取り組むことで重症化を防ぐことができる病気です。

愛知県では、医歯薬連携による糖尿病重症化予防に取り組んでいます

愛知県 公営社団法人愛知県医師会、公営社団法人愛知県歯科医師会、公営社団法人愛知県薬剤師会、公営社団法人愛知県国民健康保険協会、公営社団法人愛知県国民健康保険協会、公営社団法人愛知県国民健康保険協会、公営社団法人愛知県国民健康保険協会

医歯薬連携による糖尿病重症化予防モデル事業についてのご案内

保健師の皆様へ、ぜひ本事業の趣旨をご理解いただき、ご協力いただければ幸いです。

医歯薬連携による糖尿病重症化予防モデル事業について

歯周病は糖尿病の合併症の1つであり、また、糖尿病は歯周病と並んで歯周病の2大危険因子の1つであることが知られています。両者は密接に関連しており、歯周病をコントロールすることで、糖尿病のコントロール状態が改善する可能性が示唆されています。

医・歯・薬が連携し、糖尿病患者の歯周病リスクを低減することは、糖尿病重症化予防の観点から重要です。そこで、愛知県では、令和2年度、国保加入者を対象として医歯薬連携による糖尿病重症化予防のためのプログラムを開発しました。令和3年度は、愛知県内の一部の医科クリニック、歯科クリニック、調剤薬局にて本プログラムの試行を実施しました。令和4年度は、豊橋市全域の医科クリニック、歯科クリニック、調剤薬局のご協力を得て本プログラムを実施しています。

また、豊橋市では、特定保健指導対象者のうちHbA1cの値が高い方に対して、本プログラムで作成したリーフレットを用いた情報提供を行うとともに、歯周病リスクが高い方には歯科への受診勧奨を行う取り組みを行っています。

なお、本事業は、愛知県医師会、愛知県歯科医師会、愛知県薬剤師会ならびに各試行地域の医師会・歯科医師会・薬剤師会にもご協力をいただきながら進めています。

※名は名古屋市、瀬西市、小牧市、碧南市、東海市、豊橋市から全95機関が参加。

お問い合わせ先

愛知県国民健康保険課 国保運営グループ